

『二宮、レースに出るってよ』

競漕規則や審判上の注意

1か月前に新調したローイングスーツは、胸に県名、背中に校名がローマ字で書かれたデザインで、それは二宮のお気に入りだ。来週末に迫ったレガッタに向けて、ユニフォームを着たレースモードの練習が続いている。顧問の東山は、前に作ったものが5年で色褪せたので長持ちすればいいなと思いながら、新しいユニフォームで漕ぐ選手たちの姿を見ていた。

二宮のクルーは舵手付きクオドルブル、5人乗りの種目だ。レースが近づき、練習に一層熱が入り、タイムも縮まってきていた。県内のライバル校の調子が良いと風の噂で伝わってきているものの、それを吹き飛ばせるくらいの勢いがクルーにはある。順調な調整だが、心配なのはコックス相葉の体調だ。最近、体調が優れず学校を先日早退した。レースでは、体調万全で共に戦いたい。

いよいよレース前日。明日は全国大会に向けて、負られない一戦だ。おのずと緊張感が高まる。いつも笑っている櫻井が神妙になっている。二宮はいつものおやじギャグで仲間を笑わせた。

予定通り3時間前に会場入りして、オールや荷物を搬入する。ここまで運転してくれてくれたもう一人の顧問の薬丸にお礼を伝えた。

着替え、ウォーミングアップ等をし、公式練習に入る。リギングに手間取り、練習水域の確認がまだだった。そういえば、先月後輩のクルーが横風のためうっかり逆走し、危うく自分たちと衝突しそうになった。安全に事故のない大会にしたいと、クルーで使用するレーンを確認した。

出艇すると回漕レーンがごった返していた。出艇したクルーが回漕レーンで長く支度をしているためかと二宮は思った。このコースは比較的狭いコースのため、係の人が誘導するなど「安全に航行」するよう再三注意している。

○ユニフォームについて

- ①クルー内で統一すること。
- ②パーソナルアイテムは統一されていなくても良い。
- ③アンダーシャツ・アンダーレギンス等ユニフォーム以外に着用するものはレース時にクルー内で統一すること。注：柄の相違、色褪せによる色違い等は統一と認められない。
- ④舵手は、気候上の要件・健康上の理由によりクルー内で統一されたユニフォームに加えて漕手が着用していない衣服を着用しても良い。
- ⑤帽子・鉢巻は統一されたものであれば、着用・非着用の者がいても構わない。ただし、帽子と鉢巻きを併用する場合は一体のものとみなす。

○健康について

各選手は自分の安全と健康には十分注意を払い、途中で具合が悪くなったら必ず最寄りの役員・審判員に申し出ること。

○安全（事故防止）について

レース前の練習時に他艇と接触・衝突で艇の故障により出漕できなくなるクルーが時々見受けられる。往々にして航行ルールが守られていないことが原因である。

回漕レーンは練習用の水域ではない。すぐに止まれるスピードで進行し、後続のクルーの回漕を妨げてはならない。また練習エリア、発艇エリアの使用レーン等の航行ルールを順守し、事故が起きないように注意すること。

回漕中および練習中にレース艇と接触または妨害を引き起こしたクルーについては、イエローカードの対象となり、重大な事案についてはレッドカード(除外)となる。

前日の夕方に、代表者会議があり、日本ボート協会競漕規則の一部やこのコース特有のルールが確認され、いよいよだなと感じた。ここまで来たら腹をくくって、やってきたことを出すだけだと二宮は決意した。

この大会は、配艇方式で艇を渡され、リギングして水上に出る。しかも、選手等の確認でテントでの監視や棧橋での監視もある。ヒールロープの確認もされる。二宮たちは昨年経験しているが、2年生の二人は初めてなので幾分緊張気味だ。

監視が終わり、コックスの相葉が計量にいった。一度予備計量を行い、確認した後に本計量を行った。相葉は流石だ。55.02kgで、計量を済ませ、出艇の準備に歩を進めた。昨年は、55kgに満たないためデッドウエイトを渡されたが、その日は寒くて服装のことに気をとられていて、すっかり忘れてしまった。レースまでに気がつき、取りに行けたが、そのままデッドウエイトを携行せずにレースに出ていたら、除外となっていた。肝を冷やす一瞬だったことを思い出した。

顧問とクルーミーティングをして、レース内容について、意思の疎通をはかった。いつもの通り、円陣を組み、大きな声でクルーを奮い立たせた。さあ、出艇だ。

出艇すると、回漕レーンで自分たちの3つ前のレースが近づいてきた。このコースは、レースで使用するレーンが隣接しているので、艇を止めレース艇が通り過ぎるのを待った。

その後、練習水域でレーススピードの練習やスタート練習をしていると、徐々に自分たちの発艇時刻が迫ってきた。

待機水域で待っていると、審判から使用するレーンを指示され、そちらに漕ぎだした。バウをゴール方向に向かせて、ステイクボードにつけた。いよいよスタート3分前。心臓の鼓動が聞こえるくらい緊張してきた。相葉から「深呼吸」の声がかかり、ミーティングで確認したはずなのに、うっかりしていたことに気づいた。

※代表者会議で、特別ルールその他注意事項が確認される。

艇が転覆した場合、手を使わずに靴が脱げるようヒールロープは踵が平行以上にならないようしっかり結んでおくこと。直ぐに離脱できるシューズは適切に装着しておくこと。

○舵手の計量について

- ①計量は、ユニフォームおよび一部装着が認められているパーソナルアイテムのみで行う。
- ②舵手の体重は、計量時に許可されたものを含め男子種目 55kg 以上、女子種目 50kg 以上とする。これに満たない場合、規定の重量に達するため、最大限 15kg のデッドウエイトを艇内で舵手に最も近い場所に置くこと。デッドウエイトを携行しないでレースに出漕した場合、レッドカードが与えられ除外となる。
- ③計量は、レースのある日は必ず1回、最初に出漕するレースの2時間前から1時間前までに指定の場所で計量すること。この定められた時間内に計量をしなかったクルーは失格となる。
- ④計量所での水分摂取は禁止とする。
- ⑤予備計量（本計量器による測定）は1回限り認められるので、計量担当者に先に申し出ること。

回漕レーンとコースが隣接している場合、レースが近づいてきた際には先頭のレース艇の100m手前で必ず停止し、その最後尾のレース艇が通過するまで待つこと。

「ツーミニユッツ！」

いよいよだ。ボート競技では2分前のコールがかかると審判の判断でいつスタートしてもおかしくない。集中カマックス。しかしながら、のどが渇く。各クルー名がロールコールされた。

「アテンション」「ゴー！」

順調にスタートを切った二宮たちであったが、300m付近に差し掛かってくると、各クルーは横風にあおられてややレーンの端に振られた。出遅れた隣のクルーは、レーンを外れ、その隣のクルーに接近しているのが確認できる。審判がクルー名をよび、注意されている。

1位上がりの予選だが、500m地点を通過して半艇身差で先頭を追いかける。ラストスパートにはまだ早い。「1本1本強く」とコックスの相葉から檄が飛ぶ。オールさばきがぴったりと合い、艇差を少しずつ詰める。700mのブイが近づいてきた。打ち合わせ通りにレイトを2枚上げた。キャンバス差に詰まったが、敵もスパートに入っているらしく、簡単には並ばせてくれない。「上げろ～」と3番の二宮から声がかかり、漕手は力を振り絞った。残り100mほど並んでいる。そのままゴール！どちらが勝ったか、両クルー共にわからないくらいの大激戦であった。

最後のクルーがゴールすると、他艇のコックスのデッドウエイトが確認され、主審から白旗が上がった。二宮たちは、1位で勝っているといいな、と言いあいながら棧橋にむけ、艇を漕ぎだした。

○発艇に関する注意事項

①出漕するクルーは発艇定刻2分前までに所定の発艇位置(ステイクボード・ポンツーン)に着いていなければならない。これに違反するとイエローカードを受ける。

②発艇号令は発艇合図信号により、次の手順で行う。

ア 通常の場合

ロールコール → 「アテンション」
→ 「旗+ (ゴー)」

イ クイックスタートの場合

2分前コールの後に発艇員から通達される。
「オールクルーズ」 → 「アテンション」
→ 「旗+ (ゴー)」

※フォルススタート等があり、レースを止める場合は旗と鐘で知らせるので止まること。

○レース中の注意

①自己のレーンを外れて、他艇に接触・妨害をする危険のある艇に対し、主審が警告(注意)することがある。

この場合、主審は白旗を掲げ、クルー名を呼ぶ。

②レース中極端に遅れたクルーを主審艇が追い越す場合がある、この場合追い越されたクルーは波をかぶることもある。

○レースの終了およびレース終了後

①クルーがフィニッシュラインに到達した際には、判定よりブザー音にてクルーに知らせることを原則とするが、機器の不具合その他理由により、ブザー音が正常に鳴らないことがありうる。

②クルーは自らフィニッシュラインを確認して漕了するよう注意すること。

③フィニッシュラインを通過したクルーは、主審艇が旗を掲げるまでフィニッシュライン付近で待機すること。

④白旗が挙げられた場合、レースに問題がなく終了。赤旗が挙げられた場合、そのレースに何らかの疑義があることを示すものであり、主審より指示があるまでその場に留まり、指示を待つこと。

※競漕規則をしっかり把握することを切に願います。